

障害者差別解消法パンフレット（児童向け版）の活用実態調査について（結果）

調査対象 区立小学校
 回答 全校

(1) 障害者差別に対する取り組み状況について（複数回答可）

①	特に おこな と く 組 み は な い	0校
②	障害者差別解消法パンフレット（児童向け版）を4年生児童に配付している	41校
③	道徳や学級活動等の時間を利用して取り組んでいる	32校
④	朝の会等の中で児童に話をする時間を確保している	11校
⑤	その他 <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級と通常級の交流を日常的に行う。 総合的な学習の時間を活用 養護教諭が授業を行っている。 全校朝会等での校長訓話 総合的な学習にて、実際に障がいのある方（視覚）の話を聞いている。アイマスク、白杖体験、ブラインドサッカー体験を行っている。 人権ポスター作製の際に、ボッチャやカーレットの体験を行い、誰でも一緒に生活ができるという理解を深められるようにした。 	19校

(2) 障害者差別解消法パンフレットの活用状況（複数回答可）

①	道徳や学級活動の時間の中で活用している	26校
②	朝の会等の中で活用している	21校
③	その他 <ul style="list-style-type: none"> 今後活用していく予定 パラリンピックの参考資料としても活用 総合的な学習「福祉」、「人権」、「障がい者理解」の学習で使用 教員へも配付し意識啓発を行っている。 配付時に、内容の確認を児童と一緒にいった。 配付のみ。 校内周知、来校者への掲出 	19校

(3) 障害者差別解消法パンフレットについて

①	児童の理解しやすい内容となっている	40校
②	学校で使いやすい内容となっている	23校
③	学校で活用できるが内容の改善が必要である	2校
④	学校では活用の難しい内容である	2校
	<p>③の回答の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が自ら考えられるような問いを盛り込む必要がある。また、ワークシートに似た形式であれば、子供達も話題にしやすいのではないかと。 心の中の障がいについて、本人が自覚していない場合、取り扱いが難しい。 <p>④の回答の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導時間を確保することが難しい。 	

(4) 障害者差別解消についての学習を行っている学校への設問

【児童の反応について】

①	学習内容を理解できた	10校
②	概ね理解できた	45校
③	あまり理解できていなかった	0校

【児童に向けた障害者差別解消の理解促進についての工夫していること】

①	当事者（障がいのある方等）を講師として招く	17校
②	パンフレット以外にも教材を使用している	27校
③	<p>その他</p> <p>理解促進についての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級と通常級の交流 大森東福祉園施設長に全校朝会で話をしてもらっている。 総合的な学習の時間で、3～6年生を対象に段階的に学習している。 国語の授業の中で取り扱っている。 調べ学習をしている。 車いすや白杖体験を行っている。 校長が講話を行っている。 	8校

(5) 障害福祉課への意見要望について

- ・指導課と更なる連携を図り、他の様々な施策と関連付けてほしい。例えば、人権教育に関連付けることで、本パンフレットの活用場面が増え、理解啓発につながる可能性がある。障害者差別解消法は大人も子供も、意識的に学ぶ必要がある内容だと考える。
- ・差別意識を払拭するためには、子どものうちからの丁寧な指導が大切。一方、大人の意識改革、啓発も大切。教育現場でできることと、啓発活動でできることを考え、相互に補完しあえるように計画的に取り組んでいただく必要がある。
- ・学校に講師としてお招きできる方や体験できる講座などのリストがあったらありがたい。
- ・短時間（朝の会等）で指導できるような内容のものがあれば教えやすい。
- ・障害者理解の講話を伺う機会がないので、区内の体験談を映像もしくは、実際に講師として招き話を伺う機会を得ることが出来ればと思う。
- ・教員からの指導だけではなく、専門的な立場の方から話を聞ける機会があれば、子どもたちの障がい者への理解も深まると考える。
- ・パンフレットから様々な障がいがあることを知り、自分たちはどんなことができるかを考える学習に有効だった。共に生きる社会の大切さを感じることができ、差別解消にもつながると考える。
- ・4年生は総合的な学習の時間に「福祉」についてを取り組んでいる。「福祉」についての取り組みを行うのは、2学期頃であるため、パンフレット配付時期や、講師の先生が来られる時期を合わせられるとよい。
- ・当事者が使用している道具を実際に見せてもらえる機会があるとよい。
- ・対面授業や直接交流が難しければ、リモート交流の機会があるとよい。
- ・分かりやすく見やすい。また厚紙であるため、何度も使用することができ、児童への配慮もされている。今後も配付の継続を行ってほしい。
- ・出張授業があるとよい。